

## 第5回（平成19年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時：2007年10月5日（金） PM14：30～17：30

場所：JAMSTEC 東京事務所 大会議室

### 出席者（敬称略）

執行部：川幡穂高（東京大学）阿波根直一（北海道大学）荒井晃作（産業技術総合研究所）  
安間 了（筑波大学）池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）  
井上麻夕里（東京大学海洋研究所）小平秀一（海洋研究開発機構）坂本竜彦（海洋研究開発機構）  
日野亮太（東北大学）松本 剛（琉球大学）山崎俊嗣（産業技術総合研究所）  
山本啓之（海洋研究開発機構）

### オブザーバー：

文部科学省海洋地球課 : 杉山真人  
海洋研究開発機構 国際課 : 笹山岳大  
海洋研究開発機構 GDEX : 木戸ゆかり

事務局：中山敦志 堀内一敏 加賀谷一茶 梅津慶太

### 欠席者（敬称略）

執行部：北村晃寿（静岡大学）高澤栄一（新潟大学）山田泰広（京都大学）

### 議事次第

#### 報告事項

1. 深海掘削委員会報告（川幡部会長）
2. 乗船研究関係（荒井委員）
  - Bering sea ランキング状況
  - Canterbury Basin および Wilkes Land 公募開始
3. NanTroSEIZE プレミーティング開催報告 Exp.315, 316（池原委員）
4. J-DESC コアスクール微化石コース 開催報告（事務局）
5. アウトリーチ活動報告（事務局）
  - 第4回 IODP 成果報告会 開催報告
  - IODP キャンペーン報告
  - IODP DRILLS 準備状況
6. KJOD 開催準備状況（事務局）
7. 収支予算状況\_中間報告（事務局）
8. JPGU”地球掘削科学セッション” スペシャルセッション申込みについて（川幡部会長）

#### 検討事項

9. 乗船関係マニュアルについて
10. SPC 後任委員公募について
11. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方について
12. 高知コアセンター利用に関するアンケート調査
13. 日本堆積学会「堆積学スクール」との共催について
14. J-DESC 新規会員加入の際の個人、機関の扱いについて  
（”個人研究費振込”で、”機関加盟取扱”は可能か）
15. IODP 国内科学計画委員会からの要望について
16. 今後の戦略的な IODP 運営について

#### その他報告事項

- ・次回開催日程

配布資料

【報告事項】	【審議事項】
資料 1-1 Bering sea ランキング状況	資料 7 乗船マニュアルについて
資料 1-2 Canterbury Wilkes Land 公募開始	資料 7-1 Co-chief マニュアル(JR)2007.09 Ver.
資料 2 Exp. 315&316 pre-mtg. 開催報告	資料 7-2 乗船研究者マニュアル(JR)2007.09 Ver.
資料 3 J-DESC コアスクール微化石コース報告	資料 7-3 Co-chief マニュアル(MSP)
資料 4 アウトリーチ活動状況報告	資料 7-4 乗船研究者マニュアル(MSP_Onshore)
資料 4-1 第 4 回 IODP 成果報告会開催報告	資料 8 SPC 委員公募要領
資料 4-2 J-DESC ポスター	資料 9 IFREE による IODP 関連構造探査の進め方
資料 4-3(1) IODP 大学&科学館キャンペーン_千葉	資料 10 高知コアセンター利用に関するアンケート
資料 4-3(2) " " _鹿児島	資料 11 日本堆積学会『堆積学スクール』との共催
資料 5 KJOD 開催準備状況	資料 12 J-DESC 会員機関_加入取扱いについて
資料 6 J-DESC 収支予算状況_中間報告	資料 13 IODP 国内科学計画委員会からの要望
	資料 14 今後の戦略的な IODP 運営について

本委員会資料の通し番号（暫定案）

※[IS07\*\*\*]が通し番号になります。(IS=i-sikkou, 07=年度, \*\*\*=番号が入ります。)

資料 1-1	[IS07071]	Bering sea ランキング状況
資料 1-2	[IS07072]	Canterbury Wilkes Land 公募開始
資料 2	[IS07073]	Exp. 315&316 pre-mtg. 開催報告
資料 3	[IS07074]	J-DESC コアスクール微化石コース報告
資料 4	[IS07075]	アウトリーチ活動状況報告
資料 4-1	[IS07076]	第 4 回 IODP 成果報告会開催報告
資料 4-2	[IS07077]	J-DESC ポスター
資料 4-3(1)	[IS07078]	IODP 大学&科学館キャンペーン in 千葉_プログラム
資料 4-3(2)	[IS07079]	" " in 鹿児島プログラム
資料 5	[IS07064_2]	KJOD 開催準備状況
資料 6	[IS07019_2]	J-DESC 収支予算状況_中間報告
資料 7	[IS07080]	乗船マニュアルについて
資料 7-1	[IS070]	Co-chief マニュアル(J R)2007.09 Ver.
資料 7-2	[IS07012_2]	Co-chief マニュアル(MSP)
資料 7-3	[IS07081]	乗船研究者マニュアル(JR)
資料 7-4	[IS07082]	乗船研究者マニュアル(MSP_Onshore)
資料 8	[IS07083]	SPC 委員公募要領
資料 9	[IS07065_2]	IFREE による IODP 関連構造探査の進め方
資料 10	[IS07084]	高知コアセンター利用に関するアンケート
資料 11	[IS07085]	日本堆積学会『堆積学スクール』との共催
資料 12	[IS07086]	J-DESC 会員機関_加入取扱いについて
資料 13	[IS07087]	IODP 国内科学計画委員会からの要望
資料 14	[IS07088]	今後の戦略的な IODP 運営について
参考資料 1	[IS07022_3]	SAS パネル ローテーション
参考資料 2	[IS07089]	AESTO * J-DESC Schedules

## 第5回（平成19年度）IODP 部会・執行部会 議事録（案）

### 報告事項

#### 1. 深海掘削委員会報告（川幡部会長）

川幡部会長および杉山オブザーバーより深海掘削委員会の開催報告がなされた。

- ・ 9月13日に開催。
- ・ これまでの「ちきゅう」の準備状況報告、NanTroSEIZEの計画概要報告、FY08APPの承認が行われた。

#### 2. 乗船研究関係（荒井委員）

荒井委員より資料1-1、1-2に基づき、標記の件について報告がなされた。

##### Bering Sea ランキング状況

- ・ ランキングについては、前回執行部会で決定した方法にて科学推進専門部会が行った。

##### Canterbury Basin および Wilks Land 公募開始

- ・ 11月30日がPMOでの締め切り。1月25日ランキング完了、2月1日（Canterbury）、3月1日（Wilks Land）までにUSIOへリスト提出。
- ・ Canterburyは伊藤（千葉大学）さん、Wilks Landは西さん（北海道大学）にランキングを取り仕切ってもらう。
- ・ 今回、CVの取り扱いについては個人情報保護の観点から郵送にする。今後、個人情報保護について検討する。来月までに事務局で欧米のやり方をリサーチして参考にしながら次回検討する。
- ・ 欧米はパスワードプロテクトしたFTPサイトからダウンロードする形式をとっている。しかし、自分のPCにダウンロードするため、個人の責任になる。
- ・ 郵送は時間と費用の無駄になるので避けたい。

New Jerseyは掘削船の契約が白紙になり、再度契約の公募を行うため、来年夏の予定だが、遅れる可能性もあることが、阿波根部会長より報告された。

#### 3. NanTroSEIZE プレミーティング開催報告 Exp. 315, 316（池原委員）

池原委員より資料2に基づき、標記の件について報告がなされた。

- ・ 10月1~3日に高知コアセンターにて開催。
- ・ 乗船研究者14人が参加。
- ・ 事前の情報共有や船上での使用機器に慣れるという意味で非常に良い機会であった。
- ・ J-DESC主催という位置づけでよいかとの疑問がある。→Co-Chiefや代表者、サイエンスパーティエーの意思や航海毎の目的を尊重するため、共催とするべきである（川幡部会長）。

#### 4. J-DESC コアスクール微化石コース開催報告（事務局）

事務局より資料3に基づき、標記の件について報告がなされた。

- ・ 8月1~3日に東北大学理学部で開催。
- ・ 珪藻と有孔虫について実物標本を用いた実習を行った。

- ・ 9 大学 16 名から参加があった。
- ・ 消耗品の請求は無く（消耗品の発注が東北大からでなければ手続きが複雑になるため）、講師旅費のみ請求があった。
- ・ スクールの方針としては、講師旅費の支給を想定していなかったが、今回特別なケースとして、講師の旅費を支払った。
- ・ コアスクールの講師旅費を当てにして開催することが無きにしてもあらずということで、ルールを決めることが必要。
- ・ 微化石の分野は、旅費支援以外に支援できる項目が無い。
- ・ 以上を考慮し、予算の上限を設定した上で事前に申請することを前提として、講師旅費を出すなどが考えられる。この件については次回以降検討する。
- ・ 来年度は執行部会で内容をよく確認して支援を決定する。

## 5. アウトリーチ活動報告（事務局）

事務局より、資料 4、4-1、4-2、4-3（1）、4-3（2）に基づき、下記の件について報告がなされた。

### 第 4 回 IODP 成果報告会開催報告（Exp.309/312）

- ・ 地質学会（札幌）の夜間小集会として 9 月 10 日に開催。
- ・ 成果報告会はターゲットをより明確にするべき。

### IODP キャンペーン報告

- ・ 千葉大学、千葉県立中央博物館にて 7 月 20~21 日に開催。参加者数は大学 96 名、博物館 92 名。
- ・ 次回は 10 月 27~28 日に鹿児島大学・鹿児島県立博物館で開催予定。
- ・ 札幌、京都、水戸、つくばが予定されている。

### IODP DRILLS 準備状況

- ・ IODP-MI が中心となって開催の調整を行っており、事務局は国内での開催調整に協力している。
- ・ 2008 年 3 月 1、2 日北大、4 日九大、6 日東大、9、10 日京大で開催予定。
- ・ 札幌、京都は IODP キャンペーンと一緒に開催することを検討している。

## 6. KJOD 開催準備状況（事務局）

事務局より資料 5 に基づいて標記の件について報告がなされた。

- ・ 韓国の済州島にて 11 月 21~23 日に開催予定。
- ・ 講演者のうち、5 名は K-IODP から招待される。
- ・ IFREE で、日本海の呼び名の問題を考慮しながら、旅費支援（共催または後援）を検討中。
- ・ 事務局よりロジの案内を行う。
- ・ J-DESC としては来年度も開催する方向で検討したい。

## 7. 収支予算状況\_中間報告（事務局）

事務局より資料 6 に基づき、標記の件について報告がなされた。

### ● J-DESC 共通

- ・ 正会員 45 機関中、36 機関より会費の納入があり、未納機関については近日事務局より催促する予定。

- ・ 会員提案型活動経費は、今年度上半期に多田氏の提案が採択されており、50 万円支出予定となっている。
- ・ 広報活動経費は今年度初めに出版した NEWS Letter の英語版、地質学会ポスター出展料、ホームページの維持費が含まれる。
- ・ シンポジウム開催費は全てコアスクールへの旅費支援。
- ・ 会議開催費は執行部会開催時の水代など。
- ・ 通信費は総会資料などの郵送費。
- IODP 部会経費
  - ・ シンポジウム開催費は IODP 成果報告会での飲み物代、NanTroSEIZE 開始記念サイエンスパーティー壮行会の会場費。
  - ・ 広報活動シンポジウム開催旅費は、成果報告会、IODP キャンペーン講演者の旅費、IIS-PPG ワークショップ参加のための旅費。
  - ・ 執行部会活動経費は当初最も高い値段で計算していたが、現時点でだいぶ抑えられている。
- 陸上掘削部会経費
  - ・ シンポジウム開催費は陸上掘削情報交換会の会場費。
  - ・ ICDP プロポーザル作成支援費は鷲谷氏の ICDP 南海掘削ワークショップ開催支援費。
  - ・ 執行部会活動経費は執行部会開催のための旅費。

以下、予算に関するその他事項

- 執行部会開催費がかなり抑えられるので、執行は少なくなる見込みであり、繰越金を取り崩すには至らない。
- 執行部会開催旅費については、来年度も少ない金額で見積もることはせず、出席率を考慮して予算を立てる。
- J-DESC の会員費については、原則前年度 3 月までに次年度の会費を納入することになっているが、実際には 4 月以降にその年度の会費を納入する機関が多い。
- 会員機関を増やすことで（山形大学、鹿児島大学、産総研、京都大、科博など）、予算を増やす。
- IODP 部会の会議開催費 5 万円は何か？→国内の IODP 戦略会議として開催されているが、その費用は今年度から AESTO から支出するようになった。

## 8. JPGU “地球掘削科学セッション” スペシャルセッション申込みについて（川幡部会長）

川幡部会長より、標記の件について報告がなされた。

- ・ 来年度以降も地球掘削科学セッションを継続する。
- ・ そのためにも執行部の協力が必要。
- ・ 申し込みは 10 月 25 日まで。

検討事項

## 9. 乗船関係マニュアルについて

川幡部会長より、資料 7、7-1、7-2、7-3、7-4 に基づき説明がなされた。

確認事項

- ・ 協力をもらった研究者の Acknowledgement を書く。
- ・ PDF で公開。

- ・ バージョンアップについてはちきゅうのマニュアルがある程度整った後で検討する。
- ・ 改修後の JR 号がどのように変わったかを 2008 年 5 月以降に検証する。

#### 承認事項

- ・ 浦辺氏作成の JR 号、井龍氏作成の MSP の Co-Chief マニュアルはほぼ完成ということで、ホームページで公開する。
- ・ 安間氏、高野氏、前田氏が修正した JR 号の乗船者マニュアルについては、2 週間の間に修正コメントを事務局で受け付け、その後ホームページで公開する。

### 10. SPC 後任公募について

事務局より資料 8 に基づき、標記の件について、説明がなされた。

- ・ 山本委員の退任により、新委員を選任する必要がある。毎回、執行部から選出しているが、執行部に Deep Biosphere 専門がないため、公募（資料 8）にかける。
- ・ 執行部委員が SPC 委員になった場合は、3 月の SPC 会議に合わせて開催されている PMO 会議にも出席していただいていた。
- ・ 山本委員から適任とする後任候補の紹介がなされた。
- ・ 公募案については、特に異論は無く承認された。

### 11. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方について

小平委員より資料 9 に基づいて、標記の件について説明がなされ、下記の事項について承認された。

- ・ IFREE と J-DESC で連携して事前調査を進める、および、今後 J-DESC の中で執行部が選出した委員会を立ち上げ、必要な事前調査の選択・評価を行う。
- ・ 事前調査検討専門部会で掘削提案が提出されたもの（プレ・フルどちらも）に対してどのような事前調査が必要かのアンケートをとっている。このアンケートを利用し、事前調査の優先度を決定する。
- ・ 地震探査航海への航海プロポーザルの提出可能なもの（アンケートの対象にするプロポーザル）は、IMI に提出済みのものは全てを、未提出のものはプレプロポーザルのフォーマットで書いているものを対象とする（アンケート対象の拡大）。
- ・ 事前調査検討専門部会全体と科学推進専門部会や執行部会から数人加わって検討を行うのが相応しいとの案もあったものの、執行部が選出する、SPC や SSEP などの国際委員会に精通し各分野を評価できる委員から構成される委員会（委員会仮名：プロポーザル育成・評価委員会）を設置し、必要事前調査の実施方法、優先度の検討、および IFREE との調整を行うことが承認された。
- ・ スケジュールは小平委員の案から 1 ヶ月早めたスケジュールで始める。
- ・ 今後、深海調査委員会小川委員長に小平委員（IFREE として）と川幡部会長（J-DESC として）が説明に行く。

### 12. 高知コアセンター利用に関するアンケート調査

池原委員より、標記の件について資料 10 に基づいて説明がなされた。

- ・ IODP 航海乗船後の陸上研究や ICDP 参加者の事後研究のサポートの一環として高知コアセンターがどのようなことが出来るか、ユーザー側から見た改善点などを検討するための資料としてこのアンケートを用いたい。

- ・ アンケートの対象は、利用したことのある人、無い人（シンポジウムなどへの参加者など）。方法は、J-DESC の会員機関に依頼をする形式を想定している。回収方法は検討中。
- ・ アンケートはどう生かされるか？→共同利用という形態がふさわしいかどうか？IODP に参加する人のために年 2 回の公募は適正か？などの判断材料。
- ・ タイトルを IODP 乗船研究者および ICDP 参加研究者への高知コアセンター共同利用に関するアンケートとするのが良い。
- ・ “J-DESC アンケート”の標記も再検討。→J-DESC としてもアンケートの趣旨を理解し、高知コアセンターの高度利用に関して前向きに考えているというような趣旨の分を入れる。
- ・ アンケートの趣旨をはっきり書き、設問の項目を整理するなどして良い意見を引き出すようなアンケートにする。
- ・ 来月までにアンケートを修正することが合意された。

### 13. 日本堆積学会「堆積学スクール」との共催について

川幡部会長より、標記の件について資料 11 に基づいて説明がなされた。

- ・ 堆積学会から、11 月 15~18 日に予定されている堆積学スクール（於高知コアセンター）の共催の申し入れがあった。講師派遣と施設使用(具体的には高知コアセンター)についての協力について要請が主な趣旨。予算的な支援は要求されていない。もし共催となるならば、J-DESC に数名程度の参加枠を設けてもらうことも可能との事。
- ・ どのような形で共催できるかを検討する必要がある。J-DESC で現在開催しているコラスクールなどは、J-DESC 主催の企画で、他団体が共催となるものにかぎり、会員機関への還元という観点から、予算措置や学生・院生への旅費支援などを行っている。
- ・ J-DESC としては、年度内に J-DESC コラスクールをコアセンターで行うこと予定している。
- ・ J-DESC としては、「共催」ではなく、「協力」という形態で、メーリングリストでの開催の案内、必要に応じて講師派遣の調整(予算を伴わない)などに協力する。
- ・ 以上のことが承認された。

### 14. J-DESC 新規会員加入の際の個人、機関の扱いについて

（“個人研究費振込”で、“機関加盟取扱”は可能か）

川幡部会長より、資料 12 にもとづいて標記の件について説明がなされた。

- ・ 京都大学大学院人間・環境学研究科の新規加入に当たり、標記の問題がある。
- ・ 所属学生が TATSCAN のコラスクールに参加している。
- ・ 個人研究費でも所属機関での了承が得られているなら、機関として取り扱いを行うことが承認された。

### 15. IODP 国内科学計画委員会からの要望について

事務局より、資料 13 に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・ 経緯として、IODP プロポーザル作成支援の条件緩和に伴い、J-DESC に科学推進専門部会と執行部会でプロポーザル育成体制を強化するよう要望が届いた。
- ・ 体制強化のために行った改善や今後の戦略に関わる事項をまとめて小泉委員会に回答することが合意された。

## 16. 今後の戦略的な IODP 運営について

川幡部会長より、資料 14 に基づき標記の件について説明がなされた。

- ・ これから 1 年間、J-DESC IODP 部会本来の仕事を行っていく。以下はその主なポイント。
- ・ 国際委員会の委員になりうる人（プロポーネントにはならないが Science を評価できる人）のコミュニティーを強化するのが重要（SPC はプロポーネントになっていると一切 voting ができない）。
- ・ 乗船研究サイエンスパーティー編成の際の日本としての体制強化（MEXT としては、乗船枠 100% は埋めてほしいとの意向から、もう少し検討の余地はあることが確認された）。
- ・ 戦略的な試料の取得。サンプリングプロポーザルの充実。
- ・ IODP 乗船研究者への研究費支給。
- ・ 高知コアセンターの活用。
- ・ ECORD、アジア地域各国との連携。
- ・ J-DESC 予算増（会費制度の見直し、正会員の勧誘・新規加入）。
- ・ J-DESC の究極的な価値向上（何が価値かも含めて）。

以下、執行部委員からの今後の J-DESC の方向性・その他に対する意見

- 乗船枠に関してはもう少し慎重に考えて検討すべき。Co-Chief 枠で院生を連れて行くなど（荒井委員）。
- SAS 委員同士の情報交換や SAS 議長への支援が必要（仕事が大変・SAS 全体の状況の理解が必要）。事前の打ち合わせ時に試料を渡すなど（日野委員）。
- 特定のプロポーザルを絶対通すという戦略的意思統一が必要（小平委員）。→事前の会議はやっているが、念入りにやっているわけではない（川幡部会長）。NanTroSEIZE の際は、徹底的に意思統一をやった（山本委員）。
- 成功したプロポーザル例を HP にアップするのは難しいのでは？（内部資料のようなものだから）プロポーザル作成のためのワークショップなどを定期的に開く（松本委員）。ホームページに Q&A を載せるなどする（荒井委員）。サンプルリクエストのプロポーザルを早急に何とかすべき（川幡部会長）。
- J-DESC の究極的な価値を高めるという対象は何か？を今後検討すべき（井上委員）。会員に対する価値、その他のコミュニティーに対する価値など（松本委員）。ターゲットを明確にするのは必要（川幡部会長）
- レガシーコアが日本に来たのは重要。歴史的に重要なコアを見学するツアーを組むなど、J-DESC で企画が出来ればよい。学校の先生にそれらを使ってレクチャーするなど、E&O についてより充実させる（池原委員）。
- 渉外担当をコーディネーターとするなど、国外との関係において事務局メンバーの役割をはっきりさせたほうが良い（阿波根部会長補佐）。
- 各アクション（プロポーザル、乗船、その他）において、アドバイザーのような、コーディネーションをうまくやっていける構造・コミュニティー強化（坂本委員）。

その他報告事項

- 9 月 20 日に新宮で、「ちきゅう」/NanTroSEIZE Exp. 314 サイエンスパーティーの壮行会を開催



した。

#### 次回開催日程

メールベースで決定。講師を招聘予定。今後は講師が来たときに議論し、翌月決定する。